

演 題	ニーズに合ったレクリエーション
副 題	私たちは、季節を感じる事がしたい

フリガナ	イチノミヤケアセンター
施 設 名	いちのみやケアセンター
フリガナ	カイゴシ アメミヤヒロキ
発表者(職名・氏名)	介護士 雨宮弘樹
フリガナ	カイゴフクシシ イケヤユウキ
共同研究者	介護福祉士 池谷友輝

【はじめに】

利用者様が求めるレクリエーションの内容は多種多様になりニーズの細分化が進む中、レクの時間の確保、職員不足等を理由に押しつけがちな内容となりがちであった。そこで、利用者様のニーズを把握する為、アンケートを実施したところ全体の約60%の利用者様が季節を感じる事が出来るレクを希望していることが判明した。個別のニーズに沿ったレクリエーションを、そのアンケートをもとに企画運営委員会が企画・実施した結果、利用者様のレクに対する関心度などに変化がみられた為報告する。

【目的】

「単調な生活になりがちな利用者様に季節を感じていただくレクリエーションを提供する」

【事例紹介1】

N様 女性 88歳 介護度3
 日常生活自立度A1 認知症Ⅱa
 既往歴：心不全 狭心症 腰椎変形性すべり症 変形性膝関節症 等
 生活歴：若い頃農業を行っていた。(50歳頃より腰、両膝痛により徐々にやらなくなった。)又、手芸や散歩などをしながら在宅困難になるまで過ごしていた。

－N様の要望－

「季節の花を育てたい」この要望に対して、アンケートでも多数の回答があった「季節」という言葉に着目し深く掘り下げる為にアセスメントを実施。アセスメントを行うと、「施設内にいると季節が感じづらいので生活が単調になる」「外の空気を吸いたい」「農業をやっていたので昔のように季節の野菜を育てたい」「草花の成長を観察したい」と言ったことが聞かれ、外に出て風を感じながら花壇で草花を育てたいのだという事が分かった。

－実施の可否検討－

「花壇で草花を育てる」という要望に対して実施可能か検討に入り、その結果、課題が幾つか上がった。
 (1) 花壇までは段差も多く転倒のリスクがある。
 (2) 変形性膝関節症、腰椎すべり症の為、跛行があり疼痛が出現する。
 (3) 職員の配置、付き添いに人員が必要となる。

－作業計画－

- (1) OTを中心に段差を想定した階段の昇降訓練
- (2) NSを中心に痛みの緩和ケア
- (3) 介護職だけでなく、施設全体の協力体制の構築 遠監視での花壇までの歩行、花壇での作業を長期目標とし、現時点でも実施可能なプランターでの花の栽培から開始し、リハビリの進行状態によって、職員付き添いにて花壇への移動、作業を行う事とした。

－実施状況と利用者様の変化－

週2～3回、水やり等を職員と実施する。水やりが日課になり花が咲くと、利用者様共有スペースに活かすようになり、その後も毎日花瓶の水の入れ替えを行い、枯れれば破棄をし、「新しい花を摘みに行きたい」と花壇まで職員同伴で摘みに外にでるようになる。また、他のレクにも意欲的に参加し始める。現在では、本人より職員に対して「今日は〇〇がしたい。道具を貸してほしい。」と訴えて、積極的な面がみられるようになる。

【まとめ】

レクに対する利用者様のニーズ調査を実施し利用者様の声を掘り下げる事によって「ニーズの本質」とらえる事が出来た。もし、アンケート調査や利用者様の声を掘り下げる事をしなければ「花を育てたい」という要望に対して、植木鉢やプランターを手の届くところに用意するだけで終わっていたかもしれない。利用者様の「季節を感じる事がしたい」という本当のニーズは達成されなかったかもしれない。「ニーズの本質」に基づいたレクを企画、実行した結果、利用者様が物事に対して意欲的になった。また、ニーズを実行できるようにとリハビリ等に積極的になっている。やりたい事を職員に伝えてくる事によって職員側もやりがいを持って企画運営出来るようになった。今回のケースは利用者様との意思疎通が出来たから、細かなニーズまで対応する事が出来た。今後は意思疎通困難な利用者様のニーズや少数派のニーズに対応していくべく、介護技術の向上、知識の研鑽を行っていききたい。

